

會員の身分は、學生、中小學校教員、實業家、官吏等である。會場は教室なき爲め、止を得ず黒板を遠き小學校より借りて、上林館の下座敷と定め、主に郊外寫生を爲した。初めて筆を持つといふ初學者は、室にありて靜物寫生、鉛筆畫、臨畫等その希望に任せ、授業時間は午前八時より正午迄郊外寫生、午後一時迄が休憩、一時より二時半乃至三時迄が講話、時より五時迄郊外寫生と定め、人員を二つに分ち、一を河合一を余の受持とした。寫生の場所は午前と午後に分ち、上林の附近なる地獄谷（星川の河畔に雷の轟く如き響を爲して熱を奮騰す高さ數丈壯觀を極む）星川の河原、細野溫泉及び澁溫泉場の道路山水、角間川の河原、拜芭池、淵滿の瀧、其他森林、溪谷、展望等である。中頃に至り講話は午後六時より八時乃至九時迄と變更す。寫生の方法は場所を指定し位置を定めてこれを描かせ、時々廻りて一々説明し、初學者には自ら描寫して説明した。上林の高丘にて見下すと、澁附近一帯は畫家を以て充したといふてもよい程であつた。河合氏は山をあまり好まぬので、多く平地の方に出かけ、余は大の山好きであるから多くは地獄谷の方へ出かけた。偶々石井柏亭、山本鼎の兩氏が來遊ありて、有益なる講話と會員作品の批評等を請ふて、一段の興を添えた、吾等はこゝに其勞を深く謝するのである。（つゞく）

贅 錄(二)

■大阪では昔の人力車はチャラン／＼高い音をさせたものだが近頃はカタン／＼に變つた■一つは道路がよくない■心齋橋の通りは狭い■大阪で廣い往來は城の近處許りであらう■城の石垣の何處やらにお福の面に似た石がある、その石を見詰めてゐて、若しお福さんがニコつと笑つたのを見たら其人は其年内に死ぬげな■同じ城の外濠に蛙石といふのがある、その上へ乗ると何となく濠へ飛込みたくなつてこれも屹度死ぬげな、今は圍いがしてある■お、怖や／＼■道頓堀から千日前は每晚賑やかなもんや■この邊の仰山な人の中に袴をつけてゐるものは皆無、帽子を冠つてゐるものは曉の星 大阪は書生の少ない處だ■こゝらで何か買ふなら言ひ値の半分につけても負ける■大阪は裸體の都だ、男でも女でも家の中では殆ど丸裸、子供は往來でも着物は着てゐない■襦袢一枚のふしだらな女を幾人見た事か■感心なことには女學生は東京よりも質素だ■やり切れないのは體の御馳走さ■恐らくあんな無味なものはあるまい■魚を煮るに酒も味淋も使はぬ、野菜を煮るに砂糖を惜しむ、何だつて旨いものゝある筈がない■東京の蕎麥は大阪ではうどん、鹽せんべいばかり餅■菓子的美味なるを曾て食はず

▲横濱にて本月より隔週日曜日、大下氏出張、水彩畫研究會を開く計畫あり、入會希望者は神奈川縣保土ヶ谷、輕部雅太郎氏宛問合されたし